

巻頭言

様々な危機をチャンスに

福山平成大学 福祉健康学部
学部長 永井 純子

今年もお陰様で福祉健康学部紀要「福祉健康科学研究」第17巻が発刊される運びとなりました。今回の投稿論文は15編、うち5編が新型コロナウイルス関連となっております。

令和3年度は新型コロナウイルスの感染拡大、バイデン米大統領の就任、ワクチン接種の実施、東京五輪の開催、そして岸田内閣発足、真鍋氏のノーベル物理学賞受賞など、新たな時代への一步を踏み出す大きな出来事が次々と起こり、無観客で行われた東京五輪は、様々な問題を抱えながらも多くの人々に感動を与え閉幕しました。

新型コロナウイルスの世界的大流行（パンデミック）は、私たちが今まで経験したことのない課題をもたらしました。緊急事態宣言により外出自粛要請が出され、経済・雇用が不安化する中で、大学においてもオンライン授業が一気に導入され、苦闘した教員も少なくないと思われます。こうした状況の中で、情報技術の利用がさらに広く高度なものに発展する基礎が作られ、オンラインやICT教育活動を有望な常套手段として継続・進化させてきました。

Society 5.0を迎えようとしている現在、AIやIoT、VRなどの最新技術を活用したDX（デジタルトランスフォーメーション）はさらに活発になると予想されます。また、地球温暖化や環境汚染は今や深刻な課題になりつつあり、国連が掲げるSDGs（持続可能な開発目標）を達成していくことも我々の使命であると考えます。そのためには、多様な協働・交流を通じた社会性や対人関係能力、多くの人を巻き込み引っ張っていくための社会的スキルやリーダーシップ、他者を思いやり多様性を尊重し、持続可能な社会を志向する倫理観や価値観を持った人材が必要とされます。また、人間の創造力により生み出され、人々の共感や感動を与えてきた芸術やスポーツの分野は、AIやロボティクスによっては代替できず、ここでも大学の果たす役割は大きいと考えます。様々な危機をチャンスと捉え、時間や空間にとらわれることなく、学びに取り組むことができる教育の柔軟化・多様化を推進する新たな教育への挑戦が「未来を拓く」と考えます。

今後も多くの方々の福祉健康科学研究への投稿を期待し、福祉健康学部の益々の発展と学部紀要の充実を心からお祈り申し上げます。最後になりましたが、編集に携わって下さった紀要委員の皆様、査読者の皆様に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。